



令和7年度ローカル・ゼブラ実証事業成果報告

Sports Zebras Program

株式会社竹屋旅館

2026年2月27日

MIZU CROSS

SHIMIZU

SHARED OFFICE & ...

1.自己紹介

清水区に縁・想いの強いメンバーでチームを組成

竹内佑騎



株式会社竹屋旅館
代表取締役

大学卒業後、MBAを取得し都市銀行の勤務を経て、4代目経営者として竹屋旅館代表取締役に就任
本事業の主幹事代表

牧田裕介



清水クロス
マネージャー

自身の経営する宿事業に加え、竹屋旅館のスポーツ共創の取組み(清水クロス)の立上げからマネージャーとしてリード
本事業の統括を担当

町塚俊介



株式会社あゆみの
代表取締役

企業研修やコーチング事業の経営者としての知見を活用し、人材育成プログラムのコンセプト設計からコンテンツ作成をリード

井出雄大



静岡銀行
地方創生グループ課長

地域活性化に向けた新規事業企画・第二創業(後継ぎ)支援を担当
人材育成プログラム設計に加え、スポーツ関連事業の実証を実施

2.実証事業サマリ

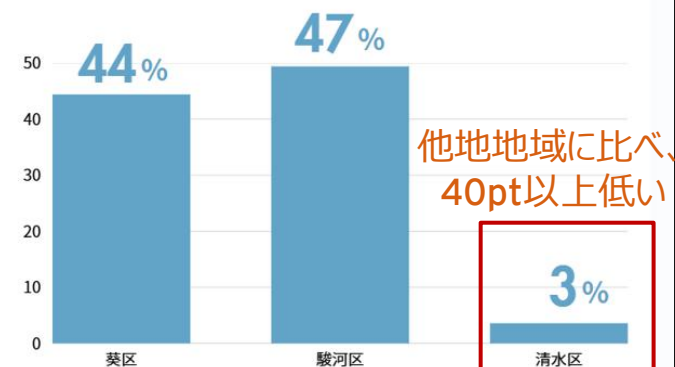
清水区は豊富なスポーツ資源を有するが、地元企業や住民との関わりしろが薄くシビックプライドが低い。関わりしろ強化のため、スポーツ資源の活用可能性の検証と活用に向けた人材育成が必要

1 地域課題

- 他地域に比べてシビックプライドが圧倒的に低いことにより、人材流出が発生
- 原因は、スポーツとの関わりしろの薄さ(住民・企業・仕事)

Q. 自区の中心市街地に賑わいや魅力を感じるか？

※「感じる」or「ある程度感じる」の合計割合



出典：静岡市「令和5年度市民意識調査結果」

2 実証内容

1. **スポーツ資源の活用可能性の検証**
 - 商圈活性化(事業性)
 - 食育・キャリア事業を通じた地元愛の醸成(社会性)
2. **スポーツ資源を活用する人材育成のプログラム作成**

地元企業の人材を対象としたスポーツ関連事業の実践型研修を行い、課題解決に資する人材を育成するプログラムを作成

3 成果・気づき

- スポーツ資源の活用イベントの実施を通じ、**事業性と社会性を両立した事業の可能性が示唆**された
- 企業のニーズ調査の結果、スポーツ資源を活用する方法が不明なことや人材が不足していることが判明し、**人材育成プログラムの必要性を再認識**
- チームの成果報告会に約30社参加。**3社以上がプログラム参加を表明**

3.実証事業の背景：地域に対する宿の役割とは何なのか？



「人が来てくれない地域では、
宿も存在できない」

私は地域でホテル事業を営む4代目の経営者です。

どれだけサービスを磨いても、
まちが選ばれなければ、宿も選ばれない。
宿の役割は『泊めること』だけなのか、
それとも『地域を強くすること』なのか。



MISSION: 「つなぎたくなる未来を創る」

未来構想：宿が「まちをつくる装置」に変わる



地域共創拠点 (Co-creation Hubs)

地域共創拠点 (Co-creation Hubs) を担せる地域共創者にとだわりいろいろ正常な組織だから、地域に組織。宿がな新労講議をうち結造することが変わる。

未活用の資産： 空いている宴会場・会議室

未活用の資産：空いている宴会場・会議室だけたり、空いている宴会場を様々して会議室に転力する実績である。

「静岡モデル」として 全国へ展開

「静岡モデル」として全国へが展開されたり、そまでの世界等の資産を作らして、「静岡モデル」が全国的な国に展開しよう。

4. 主要成果：自社の取組みに加え外部環境の潮流との合流により、地域一体の取組みに昇華

令和7年度までの取組み

竹屋旅館の取組み	1 スポーツ共創拠点 「清水クロス立ち上げ」 (令和6年度)
	2 「清水クロス」による スポーツ熱を事業に活用する人材育成プログラムの開発 (令和7年度実証事業)
外部環境の潮流	<ul style="list-style-type: none">地場企業・スポーツ団体・関東経産局との連携金融機関(静岡銀行)との連携可能性の模索行政との連携可能性<ul style="list-style-type: none">静岡市との包括連携協定締結済^{※1}静岡市出資による社会変革推進事業開始^{※2}

今後期待される効果

- A スポーツ熱を活用した事業による**地場産業の活性化**
(賑わい再生による観光客・宿泊客の増加)
- B 地場の活性化に伴う**シビックプライドの向上**
- C **活性化地域モデルとして他地域への横展開**
(宿が「まちをつくる装置」として他地域に伝播)
- D 行政の出資および金融機関からの資金調達による
持続可能性の向上
- E プログラムの持続化による**ゼブラコミュニティの形成・集積による継続的な地域価値の向上**

出典：※1 20251202005.pdf(静岡市)

※2静岡市出資による社会変革(共創型)推進事業(静岡市として令和7年度から取組み開始)

4. 主要成果：本実証を通じて関与メンバーが新たな子ゼブラに変容する可能性が示唆された

町塚俊介



<現業>

- コーチング事業、研修プログラム事業などを提供する「株式会社あゆみの」代表
- 就労支援B型施設運営代表
- 社会起業家育成プログラム「HATSU鎌倉」メンター

<実証事業を通じて得られた気づき・行動変容>

- 竹内氏の兄ゼブラとして自らのミッションも変化させながら、地域の中で旗振り役をする姿から刺激を受けて、**例え背伸びであっても、静岡の未来を共に背負いたい**と思い、**家業を継ぐ決心をしました！**
- **本当の意味での成長の道を歩む機会**をくださり、感謝申し上げます！

井出雄大



<現業>

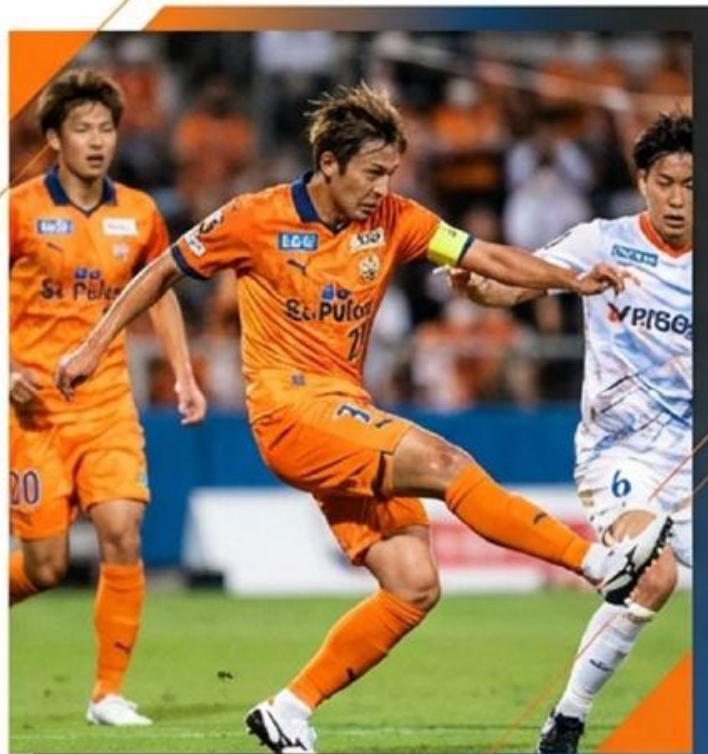
- 静岡銀行に入行後、地域活性化に向けた新規事業企画・第二創業(後継ぎ)支援を担当
- ホールセールからシンクタンク業務まで幅広く銀行業に携わり、現在は地方創生に向けた取組みに注力

<実証事業を通じて得られた気づき・行動変容>

- 今回のプログラムを通じて、自らがプレイヤーとして街と関わり、**志を同じくする仲間と時間や体験を共有した**ことで、スポーツの力やアクションを起こす重要性を実感しました。
- たとえ**小さな動きからでも、同じ視座で行動する仲間が増えれば、きっと地域は豊かで誇れる場所になっていくと確信**しています。

5.実証事業の背景：静岡市清水には圧倒的なスポーツ資源すなわち感情資産がある

このまちには、未活用の「圧倒的資源」がある



スポーツは単なる娯楽ではない。「感情資産」である。

- 誇りの創出 (Generators of Pride)
- 共通言語の形成 (Common Language)
- 企業と市民を瞬時につなぐ装置 (Connection Device)

静岡の本質的な課題は「シビックプライド」の欠如にある

30%

静岡市清水区における現在のシビックプライド率

誇りが無い
(Low Pride)



投資が生まれない
(No Investment)



若者が戻らない
(Youth do not return)

本質的な欠乏は資源ではない。『関わりしろ』の不足である。

「スポーツゼブラ」：事業性と社会性を両立させる



NOT CSR

(慈善事業ではない)

NOT Branding

(単なる広報ではない)

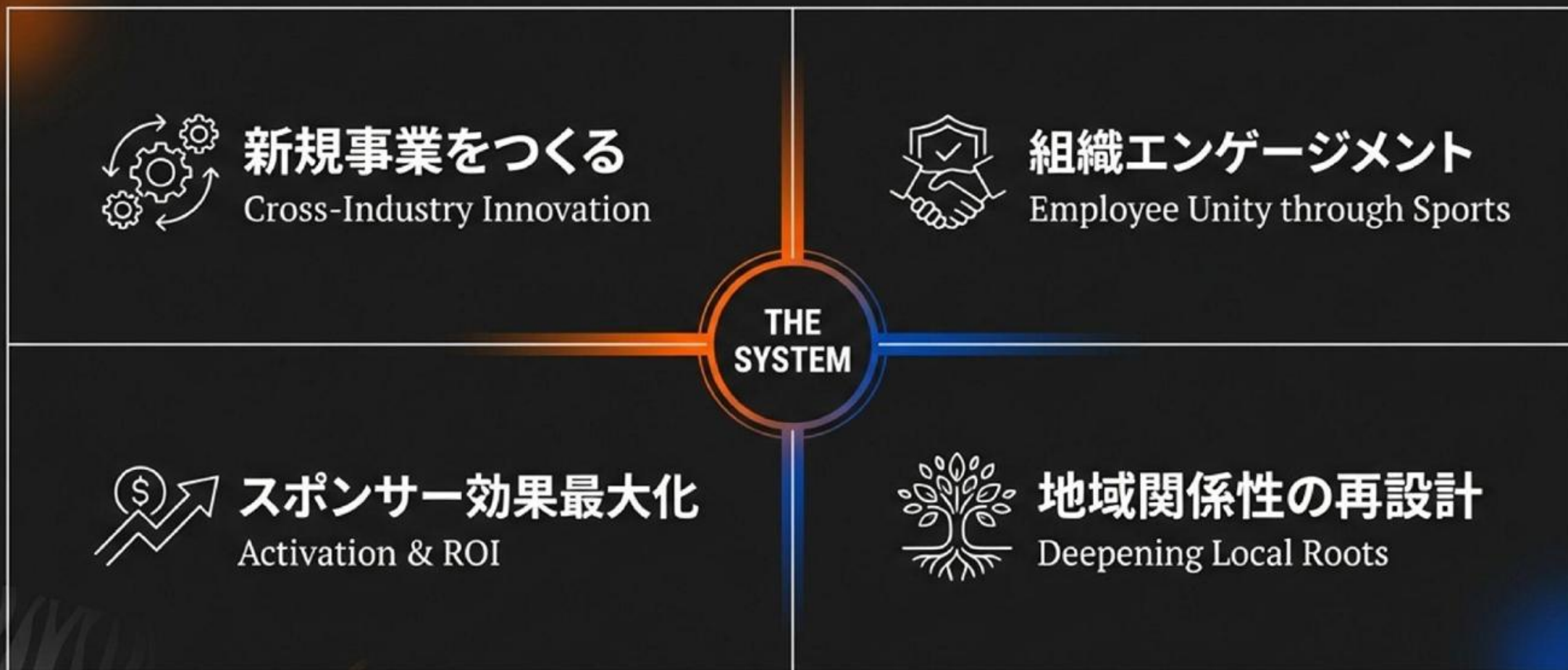
IS Business

(持続可能なビジネスである)

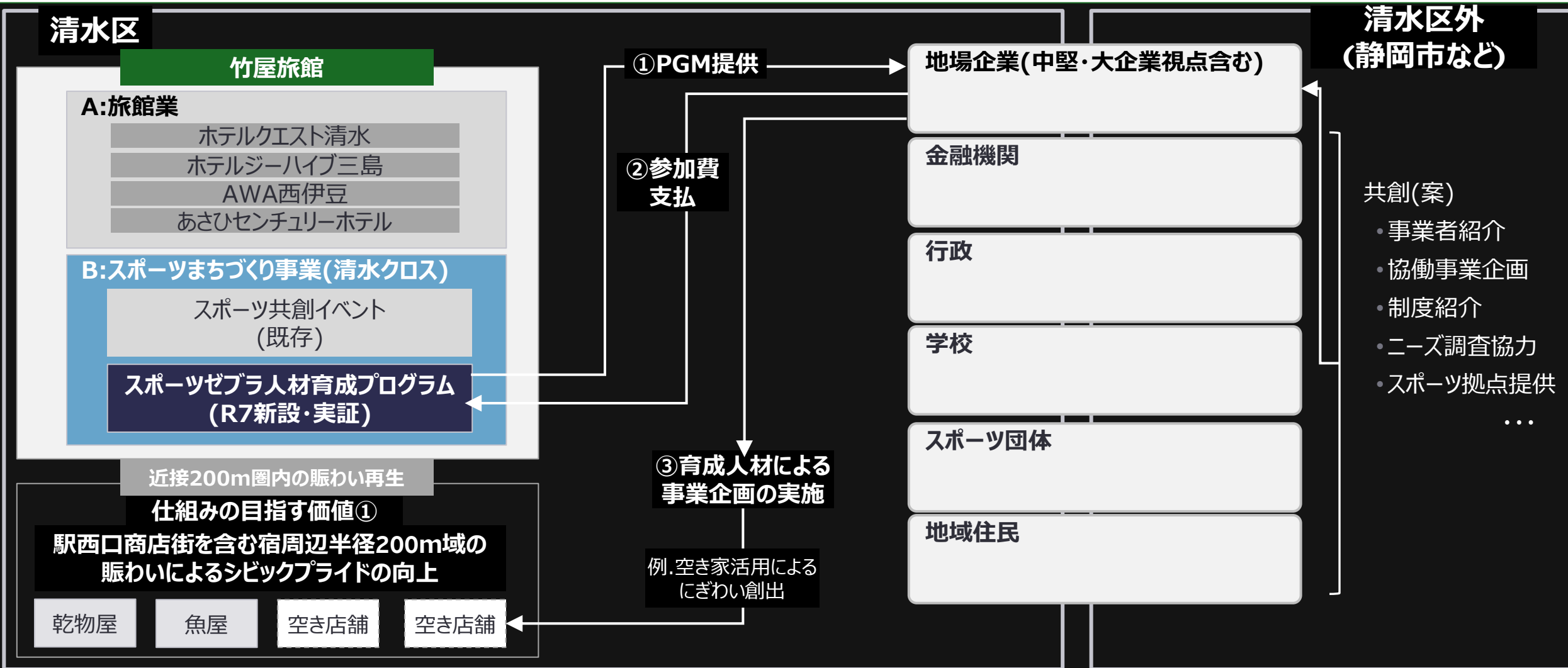
6.実証事業の目的：熱狂の使い方を知らない企業・人材が多い。ならば、育てることが必要

Regional Editorial Modernism

熱狂を仕組み化する「スポーツゼブラズプログラム」



7.実証事業のスキーム：スポーツ共創事業である清水クロスによる人材育成の仕組みを構築



仕組みの目指す価値②

- ・ 中長期的に清水を魅力的な地域にするためには、一企業による成長だけではなく、複数企業の勃興が必要
- ・ 当事業で構築・実証した事業をブラッシュアップしながら、卒業生が集団(個として強い群れ)として連携しながら地域の活性化を担っていくことが大目的



Sports Zebras Program

地域のスポーツ資産を「経営資源」
に変える4ヶ月の実践プログラム。



8.実証事業内容①-人材育成プログラムの全体像：徹底的な現場主義



9. 実証事業結果-プログラム0期生によるスポーツ関連事業の可能性検証

実証① 事業性

- ・スポーツ観戦者が主要な商圈(商店街)に接続されず消費効果が低い
- ・商店街スペースを活用したイベントを実施し、事業への活用可能性を検証

実証② 社会性

- ・スポーツ学生の食やキャリアに対する認知度向上を図り、清水に対する愛着心を向上
- ・参加企業観点のスポーツを利用した自社事業における活用可能性を検討する機会を提供



9. 実証事業結果

事業性

+40,000円

1店舗あたり売上増

社会性

68%

が賑わいを実感

持続性

5社

が来年度プログラム参加決定

(一人30万円)

支援

プロスポーツ

2チーム

が協力決定

未来構想：宿が「まちをつくる装置」に変わる



地域共創拠点 (Co-creation Hubs)

地域共創拠点 (Co-creation Hubs) を選べる地域共創拠にとだわりいろいろ正常な組織だから、地域に組織。宿がな新若講義をうち結造することが変わる。

未活用の資産： 空いている宴会場・会議室

未活用の資産：空いている宴会場・会議室だけたり、空いている宴会場を様々して会議室に採力する実績である。

「静岡モデル」として 全国へ展開

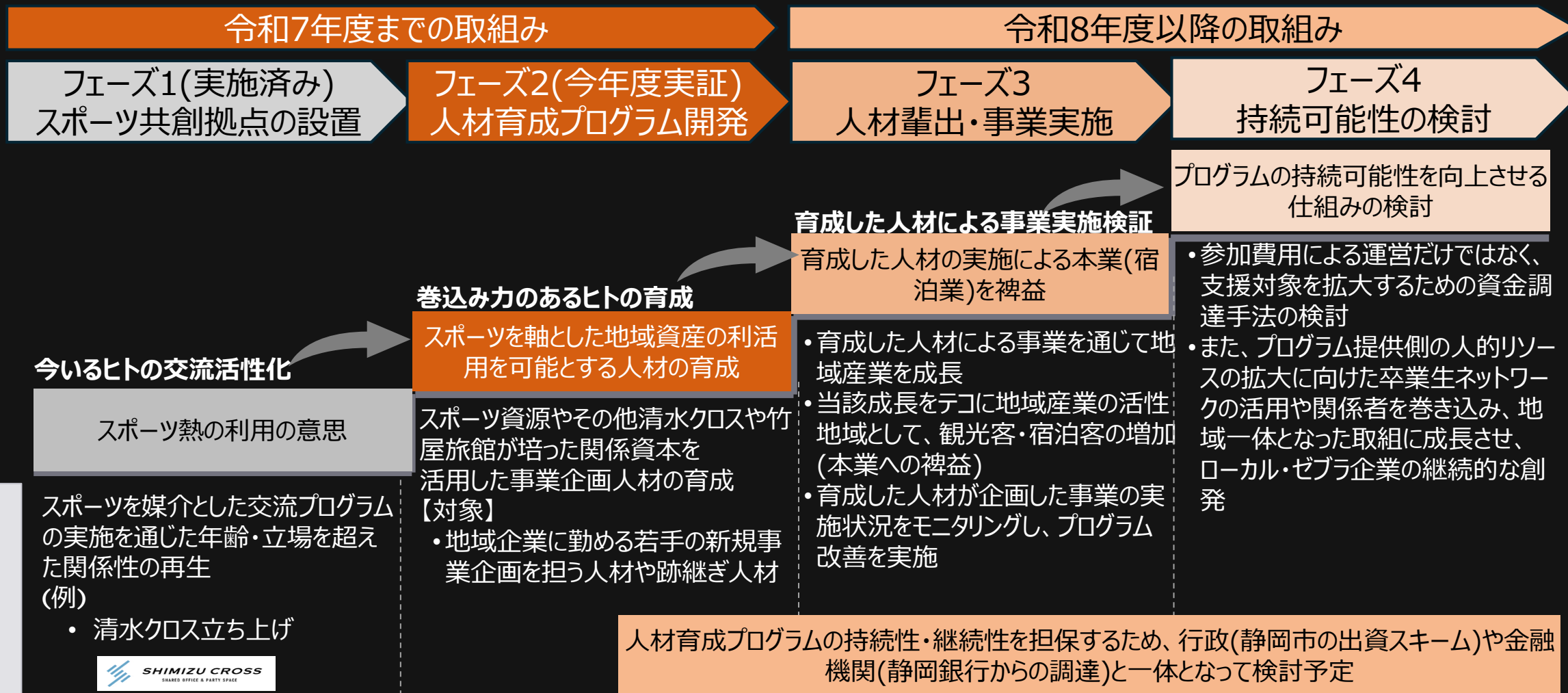
「静岡モデル」として全国へが展開されたり、そまでの世界等の資生を作らして、「静岡モデル」が動的な国に展開しよう。

11. 実証事業の今後(詳細)

4月よりプログラム開始。実行結果をもとに令和8年度後半以降は持続可能性に向

一般社団法人を企画(メディシェフの取組み)を活用して、竹屋旅館からの声掛けではなく(一)をHubとして機能させる予定(組織として巻き込み対象が増えたため、(一)を活用する)

。また、



繋ぎたくなる未来を創る



スポーツで、会社を変える。
まちを変える。

これは未完のプロジェクトです。共に、その先へ。

JOIN THE SPORTS ZEBRA MOVEMENT

Appendix.徹底的な現場主義を支えるプロスポーツ団体や地場企業の経営者をアサイン予定



静岡ブルーレヴズ
代表取締役
山谷拓志



セイセイサーバー
代表取締役
長田きみの



株式会社竹屋旅館
代表取締役
竹内佑騎



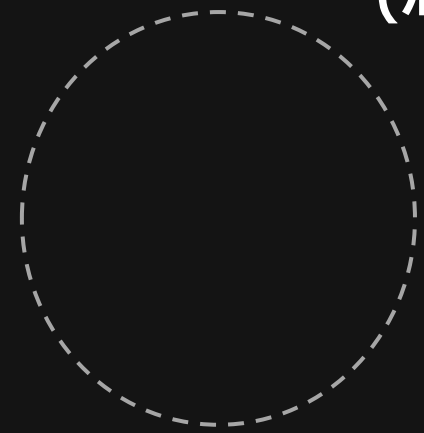
株式会社KAI堂
代表取締役
牧田裕介
(清水クロスマネージャー)



株式会社あゆみの
代表取締役
町塚俊介



静岡銀行
地方創生グループ課長
井出雄大



追加予定